

No. 375【2019年9月27日配信】
青森市の「愛市運動」(担当:工藤)

こんにちは！ 室長の工藤です。

市史編さん室時代の編さん資料を整理していたところ、1冊のクリアファイルが出てきました。タイトルのついていないこのファイルを開いてみると、今から21年前、初代の室長時代のファイルであるということが分かりました。そして、そこに綴られていたもののなかに、昭和11年(1936)に全国にさきがけて青森市で展開した「愛市運動」に関する資料がありました。今回は、この愛市運動についてご紹介いたします。

大正から昭和の初めの青森市政は、混乱のなかにありました。それを象徴するのが、2度出された内務省による市会解散命令といえるでしょう。最初は大正9年(1920)、このときは市長選挙をめぐって約1年間市会が紛糾しました。そして2度目は昭和11年、このときは衆議院議員選挙に絡んで市議11名(定員36名)と前助役が逮捕されたのに加え、現職の市長も逮捕される事件が起こるなど、市政の醜態が白日のもとに曝されることになりました。この時に選挙粛正運動と相俟って起こったのが「愛市運動」なのです。ですから、運動の中心は「市会浄化運動」ということになります。

市会解散後、市会議員選挙は4月20日に実施されました。これに先がけて商工会議所会頭の藤林源右衛門などが発起人となり「愛市同盟」が結成され、3月24日に発会式が行われました。この時、市内4か所で緑色のビラ3,000枚を入れた花火が打ち上げられましたといえます。今回見つかったファイルにはその時のビラが綴られています。

「市民各位に告ぐ」と題されたビラには、愛市同盟の「宣言」と「決議」が印刷されています。そこには「市会の再建」「市政の刷新」が謳われ、この選挙に立候補し選ばれるべき「適格者」の資質などが記されています。



愛市同盟が配布したビラ

愛市同盟は各地で懇談会を開催し、全有権者の60パーセントを超える市民が参加しました。さらに、町内の有志が発起人となり懇談会を開催したほか、女性団体にも広がりを見せ「青森婦人愛市同盟」が結成されています。そして、選挙の直前には4月15日に善知鳥神社から県庁前までの街頭行進、17・18日には公会堂で市会浄化祈願祭と立候補者の立会演説会が行われ、この運動のピークを迎えました。

さて、選挙の結果ですが、定数 36 名のうち新人が 19 名当選しました。一方、選挙違反で逮捕された候補者も 4 名当選しています。市政の浄化が声高に叫ばれた選挙であったものの、「理想からいうと今一步」と評価されています。愛市同盟はその後解散したようではありますが、世話人が何人か残っていたこともあり、昭和 15 年 4 月の総選挙に合わせて再び結成されたようです。